

# 地域協働の取組状況

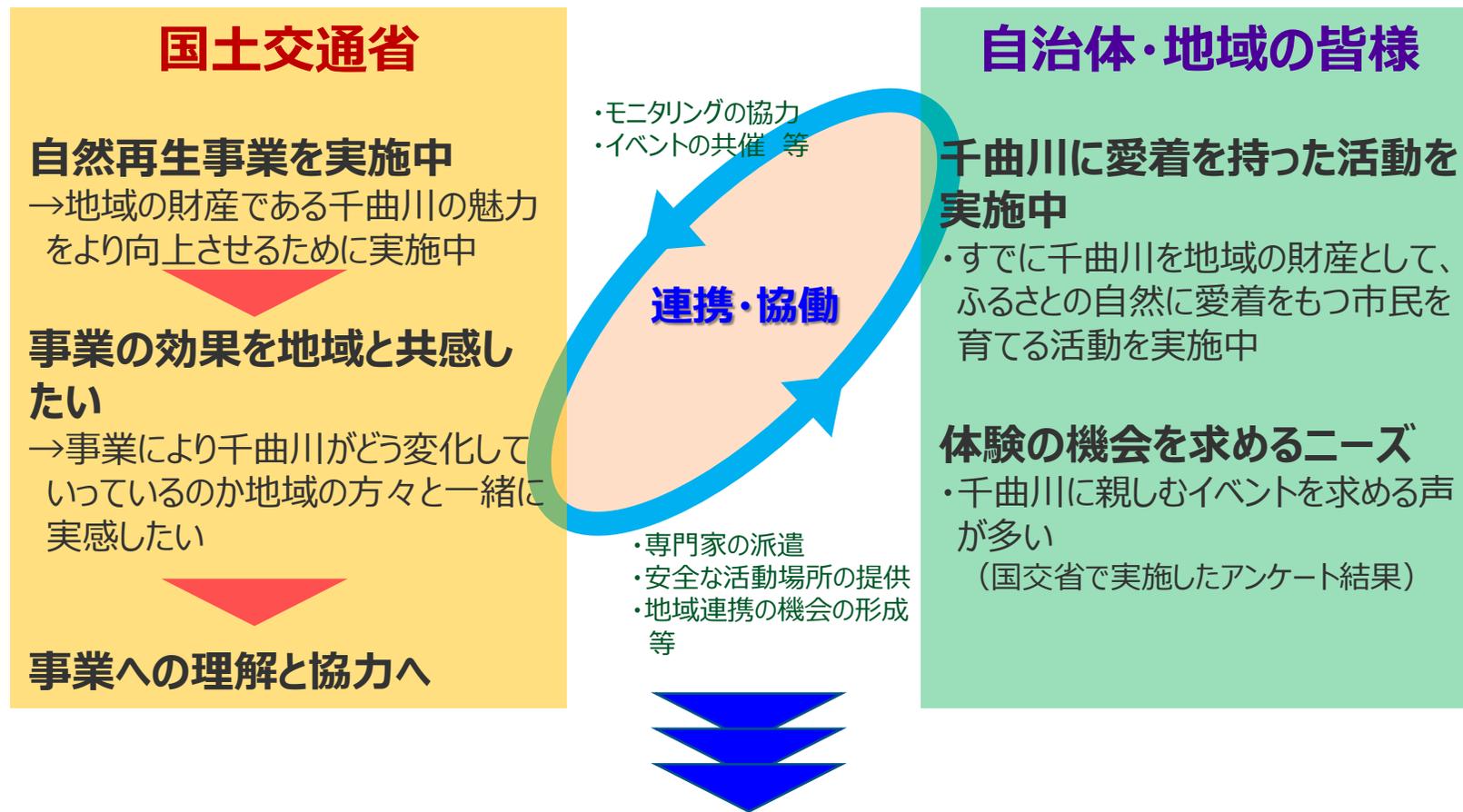
令和7年3月24日

国土交通省 北陸地方整備局 千曲川河川事務所

■ 地域協働とは	3
■ R6年度に実施した取組概要	6
■ 市町へのヒアリング	8
■ 連携した取組概要	12
・ 千曲市と連携した取組	15
・ 上田市と連携した取組	19
■ R7年度の進め方	22

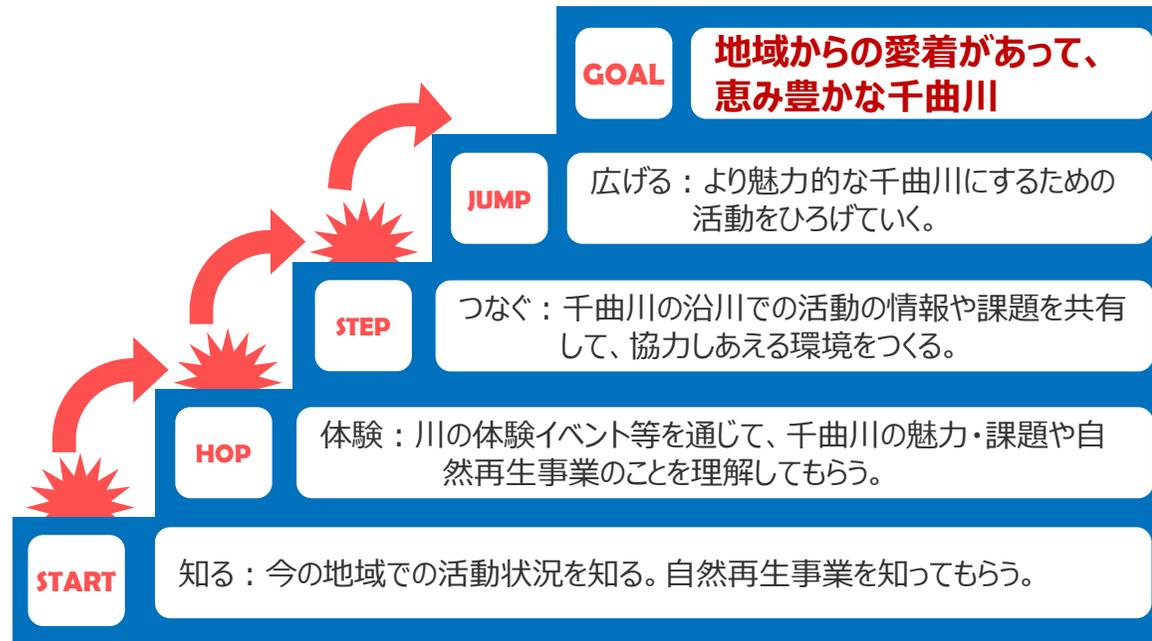
## 地域協働とは

- 国土交通省としては、より自然再生事業による効果を地域と共感したい（事業の理解と協力を得たい）。地域ではすでに様々な活動が実施しており、千曲川に親しむ機会を求めるニーズも確認。
- そうした両者が連携・協働することで、互いの活動が発展し、結果として、より魅力ある千曲川を未来の子どもたちに継承していくことができる。これを目指し地域協働を実施。



より魅力ある千曲川を未来へ継承・・・

- 地域協働の進め方の概念図を作成。GOALに向けて一段ずつ取組を実施していく考えを整理。
- 現在は、START地点からHOPの段階に進んだところ。地域に川の体験イベントを増やしていき、千曲川の魅力や課題、自然再生事業のことを知ってもらう取組を展開中。



地域協働の進め方概念図（ホップ・ステップ・ジャンプ）

## R6年度に実施した取組概要

## R6年度は以下の取組を実施（次スライド以降に詳細報告）

### ■ 市町へのヒアリング

- 自然再生事業の実施箇所のある沿川市町（上田市、坂城町、（千曲市※））に地域協働の取組に関するヒアリングを実施

※千曲市はR5年度に実施済

### ■ 千曲市と連携した取組

- 昨年度に引き続き、千曲市と連携した取組を実施

### ■ 上田市と連携した取組

- 今年度から上田市とも連携した取組を実施

## 市町へのヒアリング

- 今後の連携の可能性について、上田市にヒアリングを実施（令和6年5月実施）

## ■ 目的

- パッケージ案を提案した上で、上田市の意見を伺い、今後の連携の可能性についての意見交換を目的に実施

## ■ 上田市の意見

- 上田市生涯学習課職員が担当している「上田市子ども育成連絡協議会」では、年3～4回程度子ども向けの活動を実施している。イベントでは、川下りや魚のつかみ取りを実施しており、コロナ前のH31年は100人を超える市民が参加していた。令和5年7月は、芦田川の取組を実施した。
- 今年は地域協働イベントを予定しているため、協議会主催の上記イベントは実施しない想定である。川は安全管理が重要となるため、気軽にイベントを実施出来ない。
- イベントに適した場所であれば、事業箇所に限らず実施を検討している。
- 日程は8月10日で決定している。
- 今年度あるいは来年度以降の実施、いずれにしても連携して取組を実現したい。

**→令和6年度、上田市主催の川イベントで、新たな取組を実施した**

- 今後の連携の可能性について、坂城町にヒアリングを実施（令和6年5月実施）

## ■ 目的

- パッケージ案を提案した上で、坂城町の意見を伺い、今後の連携の可能性についての意見交換を目的に実施

## ■ 坂城町の意見

- 令和5年のつけば漁イベントは、土日2日間の実施としていた。土曜の夕方から仕掛けを設置し日曜の朝仕掛けを引き揚げる流れである。参加対象は小学3年生以上とし、親子12組に絞っている。漁師も高齢なので、今後は一日の工程への変更を考えている。
- 令和6年度は5月に予定している。直近で準備を進めているため協働はしないが、将来的には、つけば漁をイベントに絡めたい（投網体験）。
- 地域協働には興味がありぜひ組込みたいが、組込む場合、規定イベントに入れ込むか、別途一日設けるかは検討したい。
- 一度先生を含めて、イベント前に打合せを実施したい。

**→令和6年度はスケジュール上連携ができないため、令和7年度の連携を目指す  
坂城町の地域協働への参入の興味は高い**

- 今後の連携の可能性について、千曲市にヒアリングを実施（令和5年12月実施）

## ■ 目的

- 令和5年度6月に実施した協働の取組について、千曲市の意見を伺い、今後の連携の可能性についての意見交換を目的に実施

## ■ 千曲市の意見

- **バイオームに対する感想は好意的で、参加者の満足度も高く、来年も活用したいという意見であった。**
- 参加者による**バイオームの評価はよかった**と思う。
- 保護者は小学生の親がメインなので、事前にバイオームに関する問い合わせもあまりなく、当日も**大きなトラブル等はなく比較的スムーズにイベントを進行できた。**
- 参加者の子どもは低学年が多く、子どもは生き物を捕まえたり見つけたりしている一方、**保護者がメインでバイオームを使っている家庭が多かった。**
- バイオームに対する満足度もよかったので、**来年もバイオーム等を使った取組の連携ができればよい**と考えている。
- 今の子供や保護者には、バイオームなどのツールを使う方がとっつきやすいのではないかと思う。今後も今回のようなバイオームなどのツールを使った取組をしていきたい。

→**令和6年度も継続した取組を実施した**

## 連携した取組概要

- 令和6年度には千曲市及び上田市と連携した取組を実施。
  - 令和5年度までは千曲市と連携した取組のみであったが、令和6年度には上田市との取組を実施し、地域協働の連携の輪を広げることができた。

## 千曲市と連携した取組

イベント名	自然体験学習会
実施日	令和6年6月22日（土）
主催	千曲市
協力	国土交通省 千曲川河川事務所
場所	萬葉の里スポーツエリア 周辺
内容	<p><b>千曲川に関する講座</b>  <b>Biomeを使った砂礫河原の生きもの探し</b>  <b>水辺の生き物観察</b>                      鮎つかみ取り（千曲市による対応）</p>

## 上田市と連携した取組

イベント名	のびのび川遊び体験教室
実施日	令和6年8月10日（土）
主催	上田市
協力	長野大学 満尾教授 千曲川少年団 国土交通省 千曲川河川事務所
場所	城南公民館
内容	<p><b>千曲川に関する講座</b>  <b>Biomeを使った生きもの講座</b>                      水生生物の講義（長野大学 満尾教授）                      化石発掘体験（千曲川少年団）</p>
<p>※注：当日は、熱中症警戒アラートが発動したため、川の駅ではなく城南公民館（屋内）での開催へと変更となった。</p>	

- 取組としては、千曲市との取組では、①自然再生事業の講義、②砂礫河原の生き物調査、③水辺の生き物調査の実施、上田市との取組では、①自然再生事業の講義、②Biomeを使った生き物講座を実施。
- ポイントとしては、千曲市の砂礫河原の生き物調査に「Biome」という生物同定ができる携帯アプリを活用し、また、上田市の生き物講座でも「Biome」を使って生き物を紹介し、生物調査をゲーム感覚や学習ツールの一つとして楽しめる工夫をした。
- これにより、千曲川や千曲川の自然・生態系及び自然再生事業についての理解者が増えることを期待し、実施。

## 目的

- ・ 千曲市が主催するイベントに合いのりし、自然再生事業をPRすることで、事業の理解者を増やす取組を実施

## 実施内容

### ■ 自然再生事業の講義

- ・ 従来から実施している内容
- ・ 自然再生事業についての座学（河川事務所から説明）

### ■ 砂礫河原の生き物調査（Biomeアプリ活用）

- ・ 砂礫河原の生き物（植物、昆虫、等）調査を実施
- ・ 調査の際に、参加者がゲーム感覚で楽しめるツールを活用（Biome（生き物判定アプリ））

### ■ 水辺の生き物調査

- ・ 砂礫河原の水辺で、水生生物（魚、底生動物等）調査を実施
- ・ 調査の際には、Biomeの活用だけでなく、専門家による生き物分類を実施

事業内容について理解  
してもらおう

+

砂礫河原の特性  
そこに住む生き物  
について、体験を通じ  
て理解してもらおう

||

千曲川と自然再生事業に  
ついての理解者を増やす

## ■ 事業について説明

- 河川事務所の仕事の紹介
- その中に自然再生事業があることを説明
- 自然再生事業の意味や必要性等を説明



## ■ 砂礫河原の生き物を調査

- 砂礫河原の生き物調査を実施
- 生き物の種類の同定にバイオームアプリを使用



採取した水辺の  
生き物も撮影



写真撮影  
する様子

## ■ 水の中の生き物を調査

- 安全に入れるワンドで水の中の生き物調査を実施
- バイオームで魚の同定も可能
- 今回は、専門家の方から生き物についての解説をいただいた

採れた魚などは、  
ケースに入れる



水の中を  
調査

専門家から魚など  
についての解説



- 取組でのアンケート結果からは、Biomeの利用に問題はなく、好評。
- 判定精度等、アプリの機能の課題も確認。

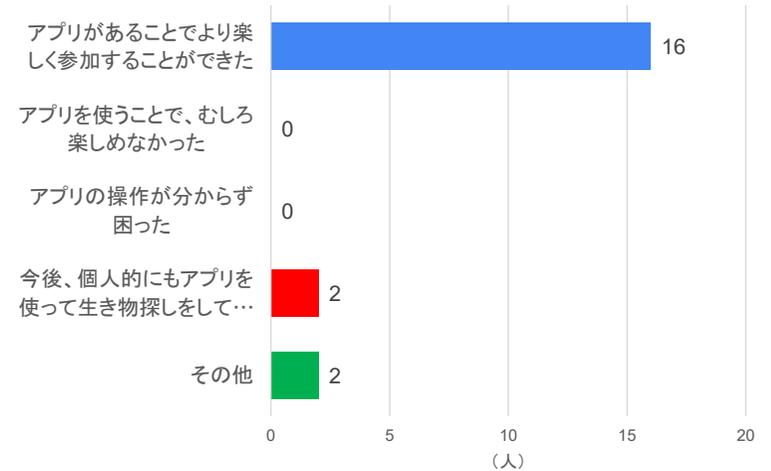
## 取組成果

- 千曲川の講義により、砂礫河原の重要性、自然再生事業をPRすることができた
- **Biomeを利用したメニューは、参加者の満足度が高いことを確認した**

## 今後の課題

- Biomeの活用方法について検討が必要  
(同定精度が低く、生物データの蓄積としては使えない)
- 継続した取組の推進体制の検討が必要

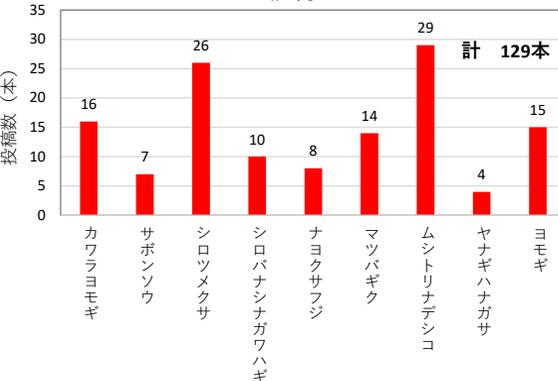
問：携帯アプリ（バイオーム）を使った生きもの探しはどうでしたか



## Biomeを使った生き物観察の取りまとめ

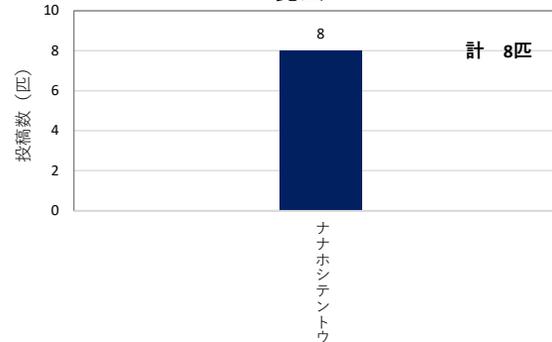
- 約9割の参加者がバイオームを使った生きもの探しを楽しんだと回答し、約9割の参加者がバイオームなどを使ったイベントに参加したいとの回答を得られた。この結果より、砂礫河原でのバイオームを使った生きもの探しは概ね成功したといえる。
- 砂礫河原で使うには、足元が悪い等危険を伴う、アプリはあまり使わなかった、投稿がうまくできず、クエスト達成ができなかったといった感想があった。
- 昨年度に続き、AIの生きもの判定の精度があまり高くないことが課題である。次年度以降バイオームを使った生きもの調査の見直しが必要と考えられる。

## 植物



▲植物の投稿結果

## 昆虫



▲昆虫の投稿結果

## ■ 事業について説明

- 河川事務所の仕事の紹介
- その中に自然再生事業があることを説明
- 自然再生事業の意味や必要性等を説明

※注：当日は、熱中症警戒アラートが発動したため、川の駅ではなく城南公民館（屋内）での開催へと変更となった。



## ■ 千曲川の砂礫河原や浦野川の生き物の講座

- 千曲川の砂礫河原や浦野川の生き物講義を実施
- スタッフが事前に採取した生き物を展示
- 生き物の種類の同定体験にバイオームアプリを使用
- クイズ形式の生き物講座や、直接生き物に触れるコーナーも実施

生き物に  
触れる体験



クイズ形式の  
生き物講座



Biomeを  
使う様子



- 取組でのアンケート結果からは、Biomeの利用に問題はなく、好評。
- 判定精度等、アプリの機能の課題も確認。

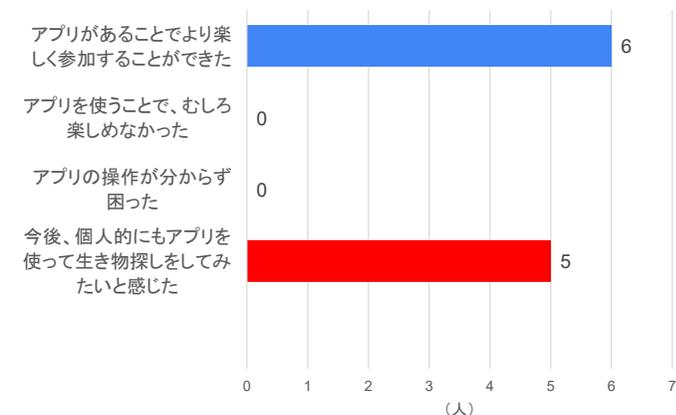
## 取組成果

- 千曲川の講義により、砂礫河原の重要性、自然再生事業をPRすることができた
- **Biomeを利用した講義では、参加者の満足度が高いことを確認した**
- **Biomeを実際に使ってみてみたいといった感想も多く得られ、利用者に興味を持たせることができた**

## 今後の課題

- Biomeの活用方法について検討が必要  
(同定精度が低く、生物データの蓄積としては使えない)
- 天候等を考慮した取組の支援など、状況の変化に柔軟に対応ができるメニュー作り等が必要

問：携帯アプリ（バイオーム）を使った生きもの探しはどうでしたか



▲Biomeに投稿された生き物の例

## Biomeを使った生き物観察の取りまとめ

- 55%の参加者がバイオームを使った生きもの探しを楽しんだと回答し、残りの45%が個人的にバイオームを使いたいと回答した。また、約7割の参加者がバイオームなどを使ったイベントに参加したいとの回答を得られた。
- この結果より、室内利用のイベントも概ね成功したといえるが、より参加者が楽しめるような見直しも必要であると考える。
- バイオームというアプリで生きものを調べることができることを知る機会を提供でき、イベント後に実際に生きものを投稿した参加者も確認されており、個人での千曲川周辺の生きものを調べてもらうきっかけづくりとなった。

## R7年度の進め方

- 千曲市と上田市とは引き続き連携した取組を継続予定
- 坂城町とは新たに連携した取組を実施予定

## ■ R7年度の取組予定

- 千曲市 6/21(土)午前 自然体験学習会
  - 親子参加 20組（50名程度）（毎年、応募多数により抽選）
  - 場所：千曲川（千曲市 萬葉の里スポーツエリア）  
※実施場所等は今後詳細調整、水辺の楽校の状況次第ではそちらも候補になりうる
- 坂城町 6/21(土)午後 川の学校
  - 詳細今後調整
- 上田市 7/5 (土) のびのび川遊び体験教室
  - 定員60人（昨年度は満員）
  - 場所：浦野川（上田 道と川の駅 付近）  
※実施場所等は、今後詳細調整

## ■ 連携メニュー案

- 基本的にはメニューは継続。
- Biomeを用いた企画から、いきもの探しビンゴ等への変更を検討中  
（生き物を判定するためのBiome（無償機能）は活用しつつ、クエストは使わないなど）
- 熱中症アラートや降雨時にも対応できるメニュー化も検討中。  
（ミニ河川水族館（事務局メンバーで生き物を採取・展示）、ストーンペイント 等）





FIN